

『シリーズ21世紀の農学』

2012年4月5日 出版

「環境の保全と修復に貢献する農学研究」

日本農学会編

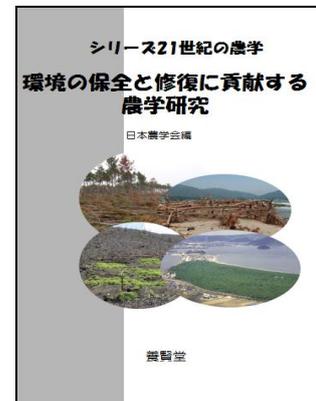
出版：養賢堂

長年にわたる人類の生産活動によって、地球温暖化や砂漠化及び土壌汚染などに代表される環境問題が深刻化しています。現在、土地の持つ生物扶養力の維持や環境浄化などの土壌機能が著しく劣化し、農業生産に打撃を与えるとともに、21世紀における全生命体の生存基盤を危うくしています。このような状況の中で、3月11日発生した巨大地震は津波と原発事故を引き起こし、農業生産に未曾有の被害を与えました。本シンポジウムでは、地球上の異なる生態系にみられる様々な環境劣化プロセスの解明と保全機能の修復のための手法を実証的に明らかにし、それぞれの環境と調和した21世紀の自然資源利用のあり方を社会へ提言しました。

それぞれの課題の中で、可能な限り大震災からの復興に向けて、農学の役割に言及しており、特に、第3部においては、東日本大震災によって引き起こされた津波による海岸林の被害及び土壌の放射能汚染を取り上げ、早急の復旧・復興を目指して、科学者の視点から考察しています。

本書は、その成果の概要を詳細にわかりやすくまとめ、充実した内容の1冊となっています。

研究者はもとより、学生や一般の方々など環境保全、修復、震災災害に関心のある方にもお奨めします。



◆体裁 A5判 約200ページ

◆定価 2,000円(税込)

■主な収載項目■

- | | |
|-------------------------------------|--------------------|
| 第1章 「砂漠化に学ぶ大規模災害の社会生態学的視点」 | (千葉大学 小林 達明) |
| 第2章 「有害有毒赤潮の発生から沿岸域を守る」 | (北海道大学 今井 一郎) |
| 第3章 「微生物を活用して三宅島噴火跡地の緑を回復する」 | 森林総合研究所 山中 高史) |
| 第4章 「アジアの米を土壌汚染から守れ」 | (農業環境技術研究所 牧野 知之) |
| 第5章 「半乾燥地における水との賢いつきあい方～「水土の知」を整える」 | (総合地球環境学研究所 渡邊 紹裕) |
| 第6章 「西アフリカの脆弱基盤に生きる知恵」 | (日本大学 林 幸博) |
| 第7章 「津波による海岸林被害と復興」 | (森林総合研究所 坂本 知己) |
| 第8章 「放射能汚染土壌の環境修復を目指して」 | (環境科学技術研究所 中尾 淳) |

日本農学会

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

TEL03-5842-2287

FAX

03-5842-2237

URL : www.ajass.jp

mail: office@ajass.jp